

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1070101041		
法人名	医療法人 群栄会		
事業所名	グループホーム みずきの家		
所在地	前橋市池端町384番地1		
自己評価作成日	平成29年度4月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成29年11月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日々の暮らしの中で常に季節を感じながら生活できる事を大切にしたいと考えています。庭の畑で季節に応じた野菜を育てたり、季節ごとの行事や庭に咲く花等から、また、何気ない会話の中からも入居者様が日常的に季節を意識して生活して頂けるように努めています。  
入居者様一人ひとりと真剣に向き合い、理念の中にある「その人らしく・毎日が笑顔で 和やかに・・・」生活して頂けるよう努めています。 病院併設の施設である為緊急時の対応はスムーズでご家族様や利用者様に安心して頂けます

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者の高齢化に伴い重度化が見られるが、本人が得意で好きなカラオケを皆の前で歌うことや、折り紙で複雑な作品を作り続け、文化祭に出展すること等、一人ひとりのやりたいこと、今できることを尊重し、利用者が毎日楽しく生活できるよう支援している。また、これまでの外部評価の結果について真摯に取り組み、事業所の運営、ケアの実践に反映させている。運営者、管理者、職員が利用者 と 真剣に向き合う姿勢がうかがえる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方と関りやつながりを大切にした理念を作成、ホールに提示する等して常に意識して実践に努めている	ホール内に大きく理念を掲示している。新入職員には個別に指導し、統一した意識をもって取り組むことを伝えている。また、各委員会でも理念の共有を確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域活動の役割として古紙回収に協力、自治会長や民生委員の方には運営推進会議に参加して頂いている	地域の行事や活動への参加を通して地域と繋がり、交流している。自治会長も協力的で情報や支援を得ている。行事の際、群馬大学医学部の実習生も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の会合等で認知症の理解を深めてもらえるような働きかけを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に年6回定期的に行い、利用者の近況や行事等の報告を行っている 地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員・ご家族等の参加を頂き意見交換等している	家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、行政の出席により、隔月毎に運営推進会議を開催している。利用者の状況、行事報告等を通して意見交換を行ない、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	前橋市の研修会や必要に応じて情報や相談等の支援を頂いている 運営推進会議には市から委託を受けた地域包括支援センターの職員が参加してくれている	主に管理者が行政への報告、相談の窓口となつて協力関係を築いている。地域包括支援センターが主催する勉強会にも参加し、知識や情報を得よう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が処遇委員会に属しており、定期的に会議を持ち意識向上に努め取り組んでいる	利用者の様子や職員の状況によって施錠することもあるが、概ね玄関は開錠してある。スピーチロック等については、処遇委員会で注意し合つて、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苦情・身体拘束・虐待等含めて処遇対策委員会で全員で取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要に応じて対応や支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い同意を得てから対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に日頃の様子を伝えながら意向・意見・要望等を聞き取れるようにしている 出された意見・要望等は職員会議等でも話し合い反映できる事は即対応に努めている	家族とは日頃から気軽に話ができる関係にあり、出された意見、要望を真摯に聴きケアに反映させている。利用者から要望があった際は、家族の協力を得て、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日のミーティングの場・施設会議等で職員の意見等を聞く場を設けている	毎日職員会議を兼ねたミーティングや施設会議、各委員会で職員が気付いた点、協力を要すること、勤務上の要望等について話し合い、職員の意見として運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	修行規則に従い業務区分や勤務区分表を適切に作成し超過業務等の縮減等を管理している 効率的な業務で計画の推進を行い職場環境条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人が目標を持ち、モチベーションを高めるよう施設内外の研修を多く活用し教育体制強化を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修や会議に出席する等して同業者と交流する機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談は本人よりも家族からの電話や来訪が多く、結果本人の困り事よりも家族の主張を聞いているが利用開始後に本人が困っている事、不安な事を聞く機会を多くとり早い時期に良い信頼関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時または後日家族に来居して頂き、より細部にわたって聞き取りや相談を受けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の状況に応じて可能な限り柔軟な対応ができるよう努めている 母体病院や老健施設、居宅支援事業所との連絡体制があり必要に応じた対応ができるよう相談やアドバイスをしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支えあって生活していくという考え方の中で教えたり教えられたり励まれたりしながらの生活を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や変化等日常の様子を家族様に知ってもらう為来訪時や電話にてきめ細かく伝えるようにしている 家族と一緒に過ごす時間を大切にしており必要に応じて提案や協力をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人が訪ねて来たり一緒に外出されたりしている これまでの関係を大切に続けていけるよう支援している	在宅からの入居者には家族や友人が訪ねて来ることが多い。習慣の新聞購読や飲料の継続、趣味の手芸や折り紙も作品として残るよう、利用者が大切にしている物の継続支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルや孤立せずに日々関り合えるようテーブル席のメンバーや入浴の順番等にも配慮して対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談にのったり、情報提供等を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の自己表現が困難な方が多いが、日々の関わりの中から得た情報を共有しながら思いや意向を把握していくよう努め、家族からの希望等を確認しながら対応している	生活している中で、利用者の言葉(「折り紙をしたい」「テレビを観たい」)や家族の話から要望や意見をくみ取り、プランに反映させている。利用者の希望を優先させる取り組みをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供と何気ない会話の中からも情報を引き出せるよう努め家族には来訪時に折にふれ話を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解しながら援助していく中で心身の状態等個別の情報も共有しながら現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングでは職員間で意見を出し合い担当者会議にて医師、看護師等の意見やアドバイスをもらっているが本人や家族にも折にふれ思いを聞き取るようにしている	毎月職員によるモニタリングとカンファレンスが行なわれ、利用者、家族の要望や利用者の現状に即したプランになるよう、3ヶ月に1度プランの見直しをしている。担当者会議も開いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人日誌の記録とは別に水分量、食事量、排泄等の個別チェック、記録、申し送りの徹底で情報を共有し見直しに生かせるよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてできる限り柔軟に対応している 医療連携体制を生かして状態に応じての往診や点滴処置、他病院への通院介助等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉事務所職員、包括支援センター等と協力しながらの支援、消防署協力の火災訓練や運営推進会議には地域の自治会長、民生委員さんが出席してくれます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の了承のもと協力医の往診を受けているが専門医の受診等は希望に応じて適切に支援している	入居時に説明し選択できるが、現在は全員が毎月1度協力医による往診を受けている。専門医への通院には職員が付き添っている。歯科は定期健診もあり、職員が受診の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に健康面の相談をしており、気付きや情報も細かく伝えてアドバイスや指導ももらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携体制ができており、ホームでの対応が可能であればなるべく早く退院し入院によるダメージを少しでも軽くできるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的処置が必要になったら病院へ、と家族には説明している 「内諾書」重度化等の指針として準備している	看取りについては事業所の指針はあるが、利用者や家族が治療を望む場合や緊急時には併設の病院と連携をとり入院する。終末期における看取りは病院で行なうことを説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し法人との連絡体制は確立されている 急変や事故発生時の対応についての話し合いは適切に行い、応急処置等の勉強会にも積極的に参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの訓練、自主訓練を含めて年7～8回は実施している 災害時における併設病院との協力体制はできており、備蓄の用意もある	消防署立ち合いの年2回の避難訓練(昼夜想定)に加え、地震や水害を想定した自主訓練が併設の病院と合同で計画的に行なわれている。備蓄品として3日分の食料、飲料等が用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	処遇委員会での話し合いやミーティング等で折にふれ話し合っており、スタッフの意識向上に努めている 排泄時の声掛けや誘導の仕方には特に気を付け入室時のノックも忘れないように心掛けている	利用者への接遇について処遇委員会を設け、個人情報の守秘義務や声掛けの際の呼び方、声の大きさ、言葉遣い等が適切に行われるよう、利用者を尊重する意識の向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも本人が納得して行動できるように、その方に応じた声掛けを行い本人が決める場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての流れはあるが、その日の状態や気持ちをくみ取りできる限り個別性のある支援を心掛けて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪、口の周りの汚れ、目やに等には特に気を付けています 男性には髭剃りを支援し入浴時や更衣の際には自分で洋服を選んで頂けるよう配慮しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時は利用者と職員と一緒に同じ食事を頂きながらさりげないサポートができるように心掛けている 菜園でとれた野菜で漬物や炒め物にして提供できる日もありそんな日は話が弾む	食事は併設病院の栄養士による献立を職員が手作りし、利用者が好む味付けで提供されている。菜園で採れた季節の野菜も楽しみの一つ。行事食、伝統食で食事を楽しむ機会を提供している。	飲み物を提供する際は、お茶の時間も楽しみになるようメニューを作って、利用者にも選択の機会を作ってはいかがか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝、夕食は併設の栄養課の献立で対応し、昼食は配食業者より配達されている 摂取量や水分量等は個別に観察しチェック表記入にて情報を共有し好きな飲み物も個別に準備している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けすればできる人、誘導や介助が必要な人等職員は把握しており、毎食後その方に応じた支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンにより誘導や見守りを行いトイレ排泄の継続や自立に向けて支援している	自立者であっても排泄チェック表やその時の様子で声掛けをし、トイレ誘導をしている。おむつを使用していたり、2人介助であっても排泄の訴えがあれば、自立に向けた支援ととらえ対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、野菜類、乳製品、水分摂取等は日常的に配慮して自然排便ができるよう取り組んでいるが必要に応じて医師と相談し下剤で調整している方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	機械浴対応日と一般浴対応日を交互に入浴日としているが希望があればどちらでも入浴はできるように対応している 拒否のある人にはタイミングや声掛けの仕方を工夫しながら支援している	現在はほとんど機械浴で対応している。重度化に伴い、入浴を拒否する利用者が多くなっているが、工夫し入浴支援に告げ、できない場合は清拭や着替えをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や夜間の就眠状態の観察を行いながら安眠につながる生活を支援している その日の体調によっても様子を見ながら休息できるように配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能、副作用の説明書は個別に保管し全職員に分かるようにしている 処方変更があった時には申し送りを徹底し様子観察の強化や記録等に注意して対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で感じて頂けるささやかな喜びや楽しみ事を大切にしています 個別に好きな飲み物を用意したり家族との外出やおやつを持参しての訪問、好きな絵を描いて過ごす等その方に応じて		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と定期的に外出している方もいる 希望時の買い物や行事での外出支援も行っている 季節によっては外気浴や散歩等日常的に屋外に出られるよう支援している	散歩や買い物、庭に行きたいと希望する利用者には職員がその都度対応している。外出できない時は外の様子がわかるよう窓側で過ごす工夫をしている。定期的に外泊や自宅に帰る利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の力量に応じたお金の使い方や管理の仕方を家族と話し合いながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があつたり、希望に応じて電話で家族とやり取りができるようその都度対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから見える庭の一部は菜園になっている そこからは野菜の生育をながめたり季節の草花を飾り、畳敷きのスペースには堀こたつがあり季節を感じて頂けるよう配慮している	明るい陽が射しこむホールは、利用者がカラオケやレクリエーションを楽しむ場となっている。窓からは赤城山を背景に庭の景色が見え、四季を感じることができる。清潔で気持ちの良い共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の壁面に写真コーナーがあり折にふれ楽しめるようにしている ソファを置き一人になれる場所も確保、畳敷きのスペースも有効活用されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家具等の持ち込みは可能である事は伝えており、個人的に家具等を持ち込んでいる方もいる 自分で作った作品や写真を飾る等思い思いに工夫されている	各居室に洗面所とトイレがあり、自分の部屋のトイレを利用できる安心感がうかがえる。不快な臭いもしない。馴染みの家具やテレビの他、カレンダーや時計が見やすい場所にあり日常生活を支える設えである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や不安の原因を探りながら状況に合わせて環境整備を行う等、安全でできる限り自立した生活が送れるよう工夫している		